

新課程全学年全面実施年に考える②

2015年度入試に見る これからの指導のあり方

数学と理科が新課程での実施となった2015年度入試。

今号は、センター試験、及び個別学力試験の出題内容を振り返り、どのような力が求められたのか、そして、その力を育むには、どのような指導が必要だったのかを考える。

更に、そうした指導を実践しながら、

2015年度入試にも対応した学校の事例を通して、指導を具体化していく。

Q 理科・数学が新課程での出題となった2015年度入試ですが、ご担当教科・科目のセンター試験、及び個別学力試験の出題内容をご覧になって感じられたことを教えてください。

- ◎センター試験の数学で、特に「数学Ⅱ・B」では思考力を問う出題が多く、これを「メッセージ」と捉えた。急な転換とも受け取れたが、この流れにはおおむね賛成であり、今後は低学年次から意識して授業を展開したい。(愛知県)
- ◎判断力、分析力(問題把握能力)が重要であると痛感した。泥臭く試行錯誤できない今の生徒たちにその重要性をどう伝え、実践できるだけの力を身に付けられるかがポイントとなる。(愛知県)
- ◎新課程になって理科の出題範囲は大きく変わったが、出題の仕方や内容には今までと大きな違いは感じられなかった。新課程ということで、もっと新しい傾向の出題があるかとも予想していたが、オーソドックスな展開であったと思う。(岩手県)
- ◎センター試験の理科は、教科書の内容をしっかりと読み取れているかどうか、高得点の鍵を握る問題であると感じた。(広島県)
- ◎日本史は大きな変化は見られなかったが、世界史では新課程を意識した出題が見られた。(静岡県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2015年2月にウェブとファクスで実施。有効回答数は54

1

2015年度入試の振り返りから考える
今後の指導

座談会 [P.6~11]

新課程入試の数学・理科で共通して求められた力

『考える力』『考え抜く力』

指導の
キーワード

- 読解力・表現力や学びの目的を土台とした、**普遍的な「学び方」**の習得
- **基礎学力**の徹底
- **生徒の主体性**を重視した授業展開
- 教師及び生徒による**学校としての指導理念**の共有

「『学び方』を身に付ける上での土台として、『なぜ、学ぶのか』という問いに対し、自分なりの答えを持つことが求められます」

京都市立^{さいきょう}西京高校 岩佐峰之

「『生徒に任せるより、自分たちが教えた方が早いし、確実だ』などと焦らず、集団として、そして個人として、生徒自身の学びが深まるのを我慢強く待つようになっています」



新潟県立新潟高校 堀越康裕

「普段の授業においても、教師と生徒が一緒になって考えるような探究型の学習活動を適宜設定していくことも、基礎学力の大切さを実感させる上では重要になってくるでしょう」

愛知県立^{はんた}半田高校 榊原 学

「生徒主体の学習活動は、多くの学校にとって新しい挑戦であるからこそ、その手法について論じる土台として、『こういう人材を育てたい』という目標の言語化が必要なのだと思います」



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校 山本俊太郎

2

新課程入試に対応した学校の事例から
指導を具体化する東京都・私立
渋谷教育学園
渋谷中学高校
[P.12~15]

◎自ら調べ、考えて正誤を判断し、責任ある行動が出来る「自調自考」の精神を、学校生活のあらゆるところに浸透させている。

◎中学1年生～高校2年生で行う校外研修では、全ての計画を生徒たちだけで立てる。「自調自考」の精神を最もよく反映した活動。また、生徒が自由に課題を設定し、解決を目指す探究学習であり、卒業要件の1つでもある「自調自考論文」で、課題発見・解決力を養う。

新潟県立
新発田高校
[P.16~19]

◎恒常的な課題であった英語の学力低下に対応するため、新入生にはまず英語の学習法を丁寧に指導するなど、「スロースタート」にして「高1ギャップ」と呼ばれる移行期をスムーズに。

◎主体的に課題を発見・解決が出来る力や意欲を育てるために、3年間で体系的な探究学習に取り組む「未来の俊傑プラン」を「総合的な学習の時間」で実施。体系的・継続的なプログラムにすると共に、生徒自身が活動し、考え、発表するというサイクルを組み込んだ。

富山県立
富山中部高校
[P.20~23]

◎主体的に学びを追究する力を育むために、探究科学科を設置。1年生では、教科横断型の学びで、探究の基礎となる考え方や意欲を育む「基幹探究」を、2年生では、テーマ決定からグループ構成まで生徒主体で進める探究学習を行う「発展探究」を実施。

◎教師間で「育てるべき生徒像」などを語り合った結果、自ら学ぶ姿勢を育むために、提出必須の課題量を半減させ、それ以上の家庭学習は生徒の自主性に委ねることにした。